

ルモアリ、此等ノ鮮已ニ久クナリタルモ腐ラズ、人取テ賞食ス、
〔食物和歌本草 六〕鶉イササ

みさごたゝ身には能なし骨を取黒焼にして骨接となる

〔日本書紀 七 景行〕五十三年八月是月乘輿幸伊勢轉入東海、十月至上總國從海路渡淡水門是時聞
覺賀鳥之聲欲見其鳥形尋而出海中、

〔釋日本紀 十七 秘訓〕覺賀鳥ミサゴ可讀之

私記曰師說瑞鳥不見其名也安大夫說美左右公望案高橋氏文云水佐古

〔本朝月令 六月〕朔日內膳司供忌火御飯事

高橋氏文云挂畏卷向日代宮御宇太足彦忍代別天皇景行 五十三年癸亥八月中 是月行幸於伊

勢轉入東國冬十月到于上總國安房浮島宮略 時太后詔磐鹿六獨命此浦聞異鳥之音其鳴駕我

久々欲見其形即磐鹿六獨命乘船到于鳥許鳥驚飛於他浦猶雖追行遂不得捕於是磐鹿六獨命詛

曰汝鳥戀其音欲見貌飛遷他浦不見其形自今以後不得登陸若大地下居必死以海中爲住處

〔萬葉集 三 雜歌〕山部宿禰赤人歌六首

美沙居石イサキ轉爾ニオフル生名乘藻ノリ乃名者告志ハノラシテ氏余親音知友ヨオヤハシリヌトモ

〔日本紀略 嵯峨〕弘仁十二年十一月己未唯鳩執魚集紫宸殿前版位見人異之

〔散木奔詔集 五 羈旅〕筑紫へくだりけるにたかともといふ所にてみさごのいをとりにけるをみてよ

める

夕まぐれたかともみつればあら磯の波間をわくるみさご成ける

〔太平記 十六〕本間孫四郎遠矢事

新田足利相挑テ未戰處ニ本間孫四郎重氏黃瓦毛ナル馬ノ太ク逞キニ紅下濃ノ鎧著テ只一騎